



企業のコスト削減と競争力強化をサポートする「任せて、伸ばす。」総合FMSを展開

グローバルな競争が激化するなか、自社の強みを伸ばし、かつ生産性を高めるための手法として注目されているのが「総合FMS（ファシリティマネジメントサービス）」だ。総合ビルメンテナンスで国内トップの「イオンデイライト」は、この9月から国内では類を見ない総合FMS企業に生まれ変わり、本業（コア事業）へ集中したい企業へのサポート事業を開始した。

厳しい企業間競争を勝ち抜くための経営戦略の一つとして、総合FMS（ファシリティマネジメントサービス）という概念が登場してきた。施設・設備の管理や運営にとどまらず、オフィス資材やメールサービス、ケータリングといった、企業にとって本業（コア事業）を支える「ノンコア業務」を一括して受託するサービスのことだ。すでに欧米では広く浸透し、同サービスをグローバルに展開して売上高1兆円を超えるプレーヤーも4社存在する。

トータルで2割のコスト削減効果を生むワンストップサービス

イオンデイライトは、全国に600の拠点を配してショッピングセンターやオフィスのほか、幅広い用途の施設の管理や清掃警備といったサービスを提供する総合ビルメンテナンスの国内トップ企業。チェルトは、事務用品や包装資材などの資材調達や自販機運営を核とするバックオフィスサポートの大手。この両社が将来的な成長戦略として思い描いていたのが総合FMS事業だ。それぞれの専門性をベ

ースとして、イオンデイライトは施設の省エネを実現する環境事業などに、チェルトは人材派遣などに事業領域を広げつつあった。そこで、両社は経営資源を統合、本格的な総合FMSをスタートさせた。企業の大切な建物資産をメンテナンスする、事務所の効率運営を推進する、という両社の既存の事業を軸に、さらに受託範囲を広げ、幅広いサービスをワンストップで総合的に提供していく構えだ。企業にとって、各分野で個別にアウトソースしていた業務を一括して委託できる総合FMSの導入は、管理・運営業務の大幅な効率化をもたらす。その結果、本業に集中できる環境が構



イオンデイライト大阪本社にあるADソリューションセンター（危機管理センター）。24時間体制で情報収集や管制業務を行っている

築され、企業体質の強化につながる。そのうえさらなるコスト削減が期待できることも大きな魅力だ。新生イオンデイライトでは、両社のこれまで蓄積してきた専門性やノウハウによる業務クオリティの維持・向上を達成しつつ、業務委託費や資材調達費、

水光熱費、人件費などトータルで約2割のコストを削減する提案ができることを目指している。

高機能研究研修施設による専門性の深化とネットワーク力が強み

内閣府行政刷新会議による事業仕分けでも、民間への業務委託の提案がなされた

が、今年6月、兵庫県加西市は、行政サービスの質向上や効率化による市民負担の軽減などを目的とした市役所業務の包括委託構想を打ち出した。全国各地の病院では、経営の合理化・効率化を図る関連業務のアウトソーシング化が進んでいる。こうした動きから、今、あらゆる事業体が総合FMSへのニーズを抱えているといえるだろう。

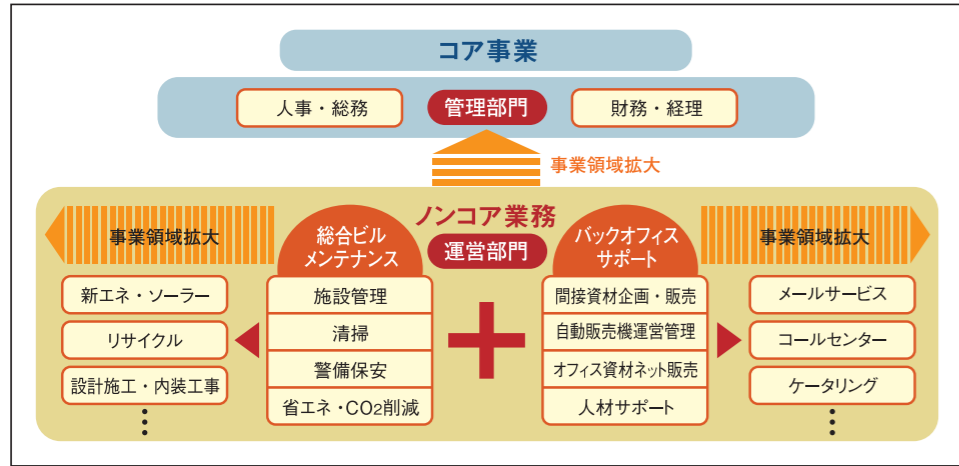
そんななか、両社が総合FMS事業を展開するうえで、強みとなるのが、滋賀県長浜市に今年3月開設した研究・研修

施設「イオンデイライトアカデミー」がはま」だ。同施設では、スーパーマーケットやホテルなど、実際の現場を再現した研修室が多数設けられ、実践的なプログラムを通して技術を習得できる体制になっている。特に、ソーラー研修室など環境関連のプログラムには力を注ぐ。すでに延べ2万人を超える有資格者を育成・教育し、専門性の深化に努めてきた同社だが、今後さらにこの施設で年間延べ1万5000人が研修を受ける予定だ。また同施設では、メンテナンスを「産業」へと変革していくことを狙いとして、官・学と連携し、メンテナンス工程の開発やサービス品質の評価基準の確立、さらなる生産性の向上といった研究を進めるプロジェクトも予定されている。

同社のもう一つの強みは、全国ネットワークによる24時間365日の監視体制。顧客からの故障・修理の相談や契約業務に関する問い合わせに対応するコールセンター業務と、各施設で事故や災害が起きたときの情報収集や中央管制業務を行う「ADソリューションセンター」は、高度な技術者による専門的でホスピタリティある提案やアドバ

イスを行い、顧客企業から高い評価を得ている。こうしたバックアップ体制は、総合FMSを展開するには欠かせない機能といえるだろう。イオンデイライトが総合FMS事業への進出を発表して数カ月、総合FMSを紹介するダイレクトメールを企業のトップへ送付するなどPR展開の効果もあり、企業からの問い合わせも増えている。一括受託に関する商談もすでに複数進行中で、早くも合併効果が表れ始めているという。今後は、日本での市場創出はもちろん、中国やASEAN諸国への事業展開も加速させていく計画だ。

イオンデイライトの「総合FMS」展開モデル



開設した研究・研修

施設「イオンデイライトアカデミー」がはま」だ。同施設では、スーパーマーケットやホテルなど、実際の現場を再現した研修室が多数設けられ、実践的なプログラムを通して技術を習得できる体制になっている。特に、ソーラー研修室など環境関連のプログラムには力を注ぐ。すでに延べ2万人を超える有資格者を育成・教育し、専門性の深化に努めてきた同社だが、今後さらにこの施設で年間延べ1万5000人が研修を受ける予定だ。また同施設では、メンテナンスを「産業」へと変革していくことを狙いとして、官・学と連携し、メンテナンス工程の開発やサービス品質の評価基準の確立、さらなる生産性の向上といった研究を進めるプロジェクトも予定されている。

同社のもう一つの強みは、全国ネットワークによる24時間365日の監視体制。顧客からの故障・修理の相談や契約業務に関する問い合わせに対応するコールセンター業務と、各施設で事故や災害が起きたときの情報収集や中央管制業務を行う「ADソリューションセンター」は、高度な技術者による専門的でホスピタリティある提案やアドバ

問い合わせ先
イオンデイライト東京本社
総合FMS事業推進室
0120-801-891 (受付時間9:00~18:00 土日祝除く)
http://www.aeondelight.co.jp



イオンデイライトでは、「任せて、伸ばす。」をキャッチフレーズとして総合FMSを展開している